

Series

私の漢方診療日誌

No.132 君の美しい唇のために 口腔アレルギー症候群の口唇腫脹に柴苓湯

実りの秋を迎え、果物が美味しい季節になりました。ところが、果物を食べると唇が腫れたり、口が痒くなったりする病気があります。口腔アレルギー症候群と呼ばれるこの症状は、西洋医学的には抗原食物を避ける以外に有効な治療法はありません。今回は、口腔アレルギー症候群の漢方治療のお話です。

H君は、3歳ごろからパイナップル、キウイフルーツ、メロンなどの果物を食べると唇が腫れて、その後2時間くらい咳が止まらなくなります。果物が原料に入っているソースでも同じ症状がでます。また、果物やソースなどの調味料だけでなく、主食である米やパンを食べても、同じ症状が出現していました。総合病院の小児科で口腔アレルギー症候群と診断を受け、抗アレルギーの内服をしましたが症状は治まらず、近くの医院で補中益気湯(TJ-41)を1年間内服しましたが、変化はありませんでした。

4歳の時、当院へ受診し、血液検査でアレルギー抗体のIgEが2480IU/mlと非常に高く、特異抗原ではシラカバ花粉のRASTクラス5と陽性で、シラカバ花粉感作とその共通抗原暴露による口腔アレルギー症候群と思われました。東洋医学的には、腹力は中等度で、右側に軽い胸脇苦満がありました。左手で弦脈があり、舌にはやや厚い白苔が見られ、歯痕舌も軽度あり水毒を示していると思われました。

体力が中等度の人の柴胡剤と水毒の治療という考えで、柴苓湯(TJ-114)を選びました。すると内服開始数日で、口唇腫脹がみられなくなり、安心して食事が食べられるようになりました。「食べるたびに唇が腫れたり、咳が出たりするのを一生我慢しなければならないと思っていたのに、薬をはじめてから嘘のように良くなりました」とお母さんが大変喜んでくれました。



口腔アレルギー症候群は、シラカバやイネ科の雑草、ブタクサの花粉に感作された人が、特定の果物や野菜を口に入れると、花粉を吸い込んだ時と同じように、咽の奥、唇、舌の痒みや痛みを覚えます。さらに吐き気や下痢などの消化器症状を起こします。しかも、花粉症ではあまり起きない呼吸困難になって、救急車を呼ぶような事態になることもあります。これは花粉症によって体内にできたIgE抗体が、果物、野菜との共通抗原性によって発症すると考えられています。西洋医学的には、抗原となる食物の除去以外に特別有効な治療法はありません。しかも、アレルギーの原因になる蛋白は、植物がストレスを受けるとさらに増えるのだそうです。人間だけでなく、植物もこのご時勢に苦労しているんじゃないか。

柴苓湯は「得効方」に記載された半表半裏の処方です。柴苓湯の構成成分に含まれる小柴胡湯は少陽病半表半裏証を和解する方剤です。これに利尿剤である五苓散を合方すると、柴苓湯になります。口唇は、皮膚と消化管粘膜の移行部であり、まさに半表半裏の部位にあたります。今回の症例は、病邪がこの部位に繰り返し現れて、慢性化した病態ととらえられました。また、粘膜の腫脹は水毒と考えられ、舌の白苔、歯痕なども同様の所見と思われました。

この子に初めて会った時は、丸顔ではれぼったい脛をした唇の厚い男の子とっていました。しかし、二ヶ月くらいすると、ほっぺから顎にかけての輪郭が引き締まり、唇も小さくおちょぼ口になり、上まぶたの腫れがひいて眼がパッチリし、ちょっとした美少年になりました。お母さんに「もともとはアイドル顔だったんですね」というと、恥ずかしそ

うに微笑んでいました。